

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	NPO法人あまがさき環境オープンカレッジ 理事長 大原 一憲
事業名	あまがさき環境オープンカレッジ実行委員会事務局業務等委託

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、D（まったくできなかった）
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	B
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	A
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	A
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	A	A
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	B
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1) 事業に興味深く取り組むことができたか。	A	A
(2) 事業への取り組みを通じて達成感を感じられたか。	A	A
(3) 事業を通じて新しい展開やつながりをつくることができたか。	A	A
(4) 事業を実施するにあたり事務や準備を適切に行うことで、事業効果を発揮することができたか。また、互いに協力することができたか。	A	A

※事業：実行委員会の支援事業等

(2) 事業効果の評価

実施手順

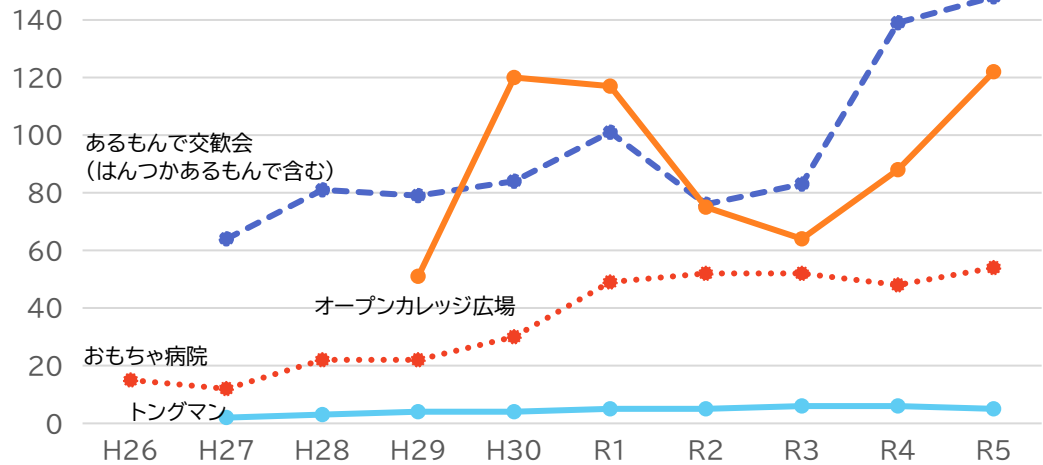
- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

項目	内容
1 評価指標	事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、啓発がより進んだか。
測定方法	あまがさき環境オープンカレッジ主催活動・連携活動参加者数の増減により測定
結果	参加者数の推移 ※H28以降、市民まつり出店による参加者のカウント法について作品作りを体験した人に限定したため、参加者数が減少している。 ※H30、R1、R4は参加者3,000人の水辺まつりから連携活動申請があったため、連携活動の参加者数が増加している。R5は水辺まつりの参加者が1,500人となっているため、連携活動、合計人数が減少している。 ※R2～3は新型コロナウイルス感染症の流行のため活動数が激減し、それに伴い参加者数も減少している。 ・令和5年度は水辺まつりの参加者の減少に伴い連携活動の参加者数がR4より大幅に減少しているものの、主催活動の参加者数の増加により合計数はR4と同程度の水準となっている。 ・令和5年度の「エコあまフェスタ」は中央北生涯学習プラザで実地開催を行い、当日出展されたのは32ブース、参加者は昨年より142名増加の722人であった。事務局ではエコあまフェスタ実施にあたり、次のとおり支援を行った。 ・参加者がスムーズに動けるようにレイアウトの変更や、より多くのブースに参加してもらえるようスタンプラリーを実施するなど参加者が安心して楽しめるような仕組みづくりに努めた。また、各団体との調整や、事前の打ち合わせを十分に行うことによって当日大きな問題なく開催することができた。 ・チラシの印刷や各学校への配布など、より多くの市民に参加してもらえるよう工夫に努めた。 ・当日の映像で記録に残すとともに、あまがさき環境オープンカレッジ事業をより広く周知し環境啓発につなげるため、環境劇の動画をyoutubeに投稿しPRした。 (参考) ・youtube再生数(令和6年5月29日時点)

環境劇「ギフト 前編 - 後編」計 233 回

・youtube チャンネル「あまがさき環境オープンカレッジ」：登録者数 36 人

通年、一般向け活動の各回の平均参加者数



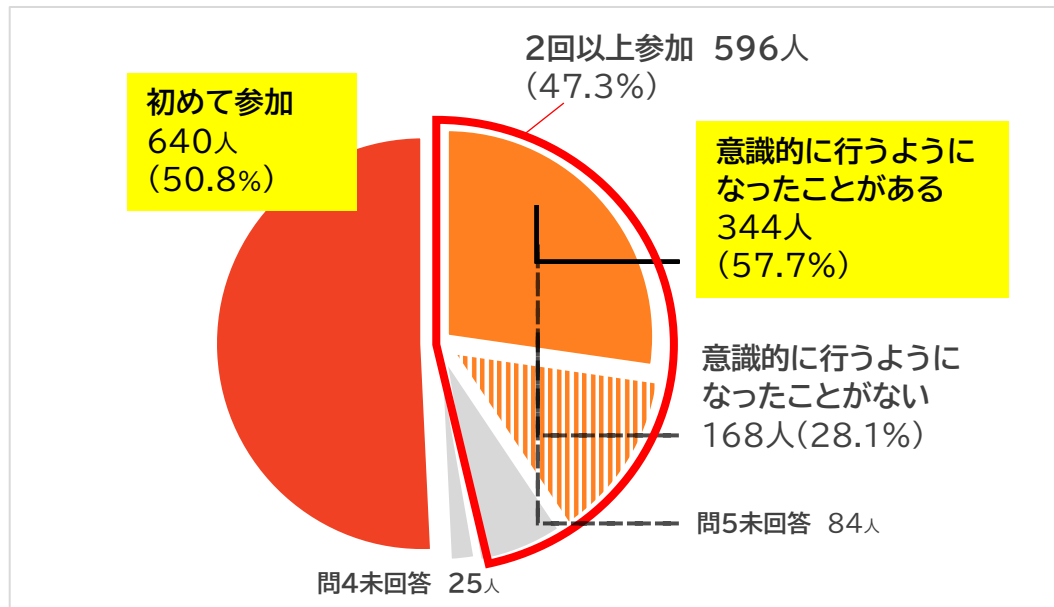
- ・オープンカレッジ広場、あるもんで交歓会、おもちゃ病院など、通年で広く一般に向けて行っている活動については、各回の平均参加者数はおおむね増加の傾向にあり、地域での環境活動の場、市民同士の交流の場として定着していることがわかる。
- ・おもちゃ病院はインターネットで検索した際、上位に表示されることが多く、新規参加者が多い。市内はもちろん周辺地域の住民が参加することも多く、より広い範囲への啓発につながっている。
- ・オープンカレッジ広場、あるもんで交歓会は常連の参加者が増えており、特にあるもんで交歓会については、R5 年度からオープンカレッジ事務所だけでなく阪急塚口駅前でも開催し、他の事業の紹介等を行うことにより交歓会等の認知度の上昇、参加者の増加につながったと考えられる。また、常連の参加者が準備の手伝いをしてくれるなど、イベントを通じて新たな交流が生まれ、市民の居場所づくりにも貢献している。
- ・ゴミレスキュー隊・トングマンは 2015 年より活動を続けており、中にはオープンカレッジを離れても環境活動に参加されている方もいるなど、参加者の環境に対する行動変容につながっている。

2	評価 指標	事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、市民に環境保全を啓発し、行動変容を促すことができたか。																																																																																																												
	測定 方法	主催活動アンケート問6について、環境に関連する6項目に「◎」「○」と答えた人の割合の増減により測定。																																																																																																												
	結果	アンケートについて、令和5年4月1日から令和6年3月31日までを集計。総回答者数は1,261人。 ■アンケート問6「参加して感じた気持ちを◎、○、△、×で教えてください。」について 問6から、環境保全活動に関連する6項目をぬき出し、「◎」もしくは「○」と答えた人数を調べる。 環境にやさしい暮らしへの ヒントが見つかった <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>199</td> <td>15.8%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>577</td> <td>45.8%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>36</td> <td>2.9%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>0</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>431</td> <td>34.2%</td> </tr> </tbody> </table> 環境にやさしい暮らしに気 を付けようと思った <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>291</td> <td>23.1%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>515</td> <td>40.8%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>23</td> <td>1.8%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>12</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>420</td> <td>33.3%</td> </tr> </tbody> </table> 環境のために自分にできる ことは何かを考えた <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>208</td> <td>16.5%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>529</td> <td>42.0%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>57</td> <td>4.5%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>26</td> <td>2.1%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>441</td> <td>35.0%</td> </tr> </tbody> </table> 環境のことについてもっと 調べてみようと思った <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>130</td> <td>10.3%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>459</td> <td>36.4%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>123</td> <td>9.8%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>30</td> <td>2.4%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>519</td> <td>41.2%</td> </tr> </tbody> </table> これから実際にやってみた いことがみつかった <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>139</td> <td>11.0%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>398</td> <td>31.6%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>149</td> <td>11.8%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>34</td> <td>2.7%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>541</td> <td>42.9%</td> </tr> </tbody> </table> 今日知ったことを人に話 してみたいと思った <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>225</td> <td>17.8%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>468</td> <td>37.1%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>78</td> <td>6.2%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>31</td> <td>2.5%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>459</td> <td>36.4%</td> </tr> </tbody> </table>	Response	Count	Percentage	◎	199	15.8%	○	577	45.8%	△	36	2.9%	×	0	0.0%	未回答	431	34.2%	Response	Count	Percentage	◎	291	23.1%	○	515	40.8%	△	23	1.8%	×	12	1.0%	未回答	420	33.3%	Response	Count	Percentage	◎	208	16.5%	○	529	42.0%	△	57	4.5%	×	26	2.1%	未回答	441	35.0%	Response	Count	Percentage	◎	130	10.3%	○	459	36.4%	△	123	9.8%	×	30	2.4%	未回答	519	41.2%	Response	Count	Percentage	◎	139	11.0%	○	398	31.6%	△	149	11.8%	×	34	2.7%	未回答	541	42.9%	Response	Count	Percentage	◎	225	17.8%	○	468	37.1%	△	78	6.2%	×	31	2.5%	未回答	459	36.4%
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	199	15.8%																																																																																																												
○	577	45.8%																																																																																																												
△	36	2.9%																																																																																																												
×	0	0.0%																																																																																																												
未回答	431	34.2%																																																																																																												
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	291	23.1%																																																																																																												
○	515	40.8%																																																																																																												
△	23	1.8%																																																																																																												
×	12	1.0%																																																																																																												
未回答	420	33.3%																																																																																																												
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	208	16.5%																																																																																																												
○	529	42.0%																																																																																																												
△	57	4.5%																																																																																																												
×	26	2.1%																																																																																																												
未回答	441	35.0%																																																																																																												
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	130	10.3%																																																																																																												
○	459	36.4%																																																																																																												
△	123	9.8%																																																																																																												
×	30	2.4%																																																																																																												
未回答	519	41.2%																																																																																																												
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	139	11.0%																																																																																																												
○	398	31.6%																																																																																																												
△	149	11.8%																																																																																																												
×	34	2.7%																																																																																																												
未回答	541	42.9%																																																																																																												
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	225	17.8%																																																																																																												
○	468	37.1%																																																																																																												
△	78	6.2%																																																																																																												
×	31	2.5%																																																																																																												
未回答	459	36.4%																																																																																																												

環境保全活動に関連する 6 項目のうち 4 項目は、「◎」もしくは「○」と答えた参加者の数が半数を超えている。いずれも環境問題と自分の生活を結び付けて考え、行動することにつながる内容であるため、あまがさき環境オープンカレッジ主催活動に参加することを通して、市民の環境意識を啓発し、行動変容を促すことができたと捉えられる。

■アンケート問 4「活動への参加は何回目ですか」

アンケート問 5「2 回以上参加した人は以前参加した活動の後に意識的に行うようになったことはありますか。」について



・「初めて参加した」と答えた参加者は 640 人/1,261 人と、アンケート回答者の約半数である。また、あまがさき環境オープンカレッジの活動に 2 回以上参加した人への質問では、以前参加した活動後に意識的に行うようになったことが「ある」と回答した人数は 344 人/596 人となっており、半数以上があまがさき環境オープンカレッジ主催活動への参加が行動変容につながったと答えている。

・事務局では、あまがさき環境オープンカレッジ環境情報誌の発行、市報への掲載手続き、ポスターの作成、コミュニティ連絡版へのポスター掲示依頼手続き、チラシの作成、配布、Facebook での発信、HP での活動報告、youtube での動画発信等、多様な媒体での広報により実行委員会の活動を支援し、より広い範囲に向けての周知活動を行った。これにより、これまで環境に関心のなかった層や情報が届きにくかった層にもアプローチすることができ、イベントに参加するという行動変容、並びに、イベントから学んだことを実践するという行動変容につながったものと考えられる。

3	評価指標	市内で活動する環境活動団体や企業、行政等とのネットワークを広げられたか。																																											
	測定方法	これまでの連携団体数と新規連携団体数により測定																																											
	結果	連携団体数の推移 <table><thead><tr><th>年度</th><th>新規</th><th>既存</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>H26</td><td>79</td><td>21</td><td>100</td></tr><tr><td>H27</td><td>54</td><td>75</td><td>129</td></tr><tr><td>H28</td><td>32</td><td>95</td><td>127</td></tr><tr><td>H29</td><td>38</td><td>91</td><td>129</td></tr><tr><td>H30</td><td>25</td><td>95</td><td>120</td></tr><tr><td>R1</td><td>24</td><td>99</td><td>123</td></tr><tr><td>R2</td><td>13</td><td>49</td><td>62</td></tr><tr><td>R3</td><td>17</td><td>66</td><td>83</td></tr><tr><td>R4</td><td>24</td><td>84</td><td>108</td></tr><tr><td>R5</td><td>23</td><td>100</td><td>123</td></tr></tbody></table> ■ 新規 ▨ 既存 ・これまでの連携団体数は累計 373 団体で、令和 5 年度に新しく連携した団体は 23 団体である。令和 4 年度の新規連携団体数は 24 団体、令和 3 年度の新規連携団体数は 17 団体であった。 ・活動を再開した団体などとも新しく連携したことで新規連携団体数はコロナ禍前の水準に戻っている。 ・これまでに連携した団体には事務局からこまめに連絡や報告を行っており、様々な団体と長期的につながりをもつことができている。 ・エコあまフェスタ、あまがすき通信への掲載、環境活動団体ミーティングでの新規連携が多い。	年度	新規	既存	合計	H26	79	21	100	H27	54	75	129	H28	32	95	127	H29	38	91	129	H30	25	95	120	R1	24	99	123	R2	13	49	62	R3	17	66	83	R4	24	84	108	R5	23	100
年度	新規	既存	合計																																										
H26	79	21	100																																										
H27	54	75	129																																										
H28	32	95	127																																										
H29	38	91	129																																										
H30	25	95	120																																										
R1	24	99	123																																										
R2	13	49	62																																										
R3	17	66	83																																										
R4	24	84	108																																										
R5	23	100	123																																										

3 総合評価

協働側面の評価	
【良かったこと】	- 関係機関との調整など、様々な部分を補い合いながらできた（市） - 互いに協力し合い、事前に準備や打ち合わせを行うことで事業効果を発揮できた（AOCE） - なかなか現地参加はできなかったが、前向きにかかわることができた（市）
【今後改善が必要なこと】	- 市がどのように動いているか事前に知ること動けることがあったと思う（AOCE） - 事務局としての目標について共通認識はできなかったように思う（市）
【対策】	- 有益となるような情報については事務局会議や実行委員会で共有するとともに、関係部署の職員などによる事業の説明や意見交換の場を設ける - 改めて目標や指標を確認する機会を設ける
事業効果の評価	
【達成できたこと】	- 主催活動への参加を通じて参加者に行動変容を促すことができた。 - 主催活動「あるもんで交歓会」や「オープンカレッジ広場」について、活動場所周辺の地域住民への定着、環境意識の醸成を図ることができた。 - 令和 5 年度は新たな取り組みとして、民間企業 2 社の協力のもと、各社環境課題のレクチャーならびにオフィス見学をおこなう「ココドコエコ」を実施。従来リーチしきれていなかった 10

代～40代の層の参加者を集めることができた。

【達成できなかったこととその原因、対策等】

- 今後の課題として、オープンカレッジ実行委員の高齢化が挙げられる。そのため、エコあまフェスタや環境活動団体ミーティングなどで他の団体とのつながりを広げ、実行委員会などに定期的に参加してもらうなど、一度つながった団体と継続的に連携できるような仕組みを検討していきたい。また、より若い世代にイベントに参加してもらえるように、イベント内容や、周知方法の検討が必要。

総評

- 市と団体それぞれの強みを生かし事業を行うことで、市民、企業、学校、行政など様々な団体との連携が進んだ。
- お互いに忌憚のない意見交換を行うことができる関係性ができており、それを事業に活かすことができていると感じる。
- 市民目線から魅力的な活動を計画、実施することで、多くの新規参加者を獲得することができ、これまでより多くの市民に環境保全について広く啓発することができた。
- 役割について多少の認識のずれはあったものの、随時の情報共有を行うことで、事業広報や事業実施などの準備を適切に行い、事業の効果を発揮することができた。